

飛鳥びと

高松塚古墳壁画発見50周年特別号

古きもの
明日のもの

2022年
春から
夏へ
No.14

座談会出席者

【敬称略】

- 和田林道宣 (公財) 古都飛鳥保存財団 理事長
本中 真 (独法) 国立文化財機構 奈良文化財研究所 所長
建石 徹 (独法) 国立文化財機構 東京文化財研究所 保存科学研究センター長
岡林 孝作 奈良県立橿原考古学研究所 副所長 (兼) 附属博物館 館長
相原 嘉之 奈良大学 准教授 (コーディネーター)



和田林理事長

世紀の大発見 —「飛鳥美人」「四神図」など—

相原先生…昭和47年の高松塚古墳で飛鳥美人（女子群像）や四神図などの壁画発見は、世纪の大発見として、マスコミで大々的に報じ

かせいただき、それを参考に今後の運営や普及啓発事業に努めさせていただいている。

和田林理事長…昨年は当財団が創立50周年を迎え、そして今年3月に壁画発見50周年の節目を迎えるました。この間にはさまざまな出来事があり、関係者のご苦労があつたことと思います。当財団も壁画館を設置・運営し、幸い多くの方にご利用いただけて参りました。

50周年の節目に半世紀の歩みを振り返るとともに、これから壁画の保存と活用のあり方や壁画館への期待などを、皆様からお聞かせください。



西壁女子群像

■テーマ

高松塚古墳壁画の発見から半世紀。

これまでの出来事を振り返るとともに

「古墳壁画の保存・活用方法」「世界遺産登録への見通しや期待」など、高松

塚古墳を中心に、今後の「飛鳥・藤原の文化資産の保存と活用」について、

それぞれの立場から思いや期待を語っていただきました。

高松塚古墳壁画発見50周年記念 紙上座談会

岡林副所長…昭和47年の発掘調査は、明日香村史刊行事業の一環として企画されたと聞いています。明日香村から県の教育委員会が委託を受け、橿原考古学研究所が調査を担当しました。所長の末永雅雄先生の指揮の下、秋山日出雄先生、網干善教先生、伊達宗泰先生が調査員を務められました。

石室が開口し、壁画が発見されたのは3月21日です。末永所長の判断で、内部の調査はわずか5日間で終えられ、25日には石室の入り口は厳重に塞がれました。壁画の保存を第一に考えた処置であることは言うまでもありません。石室を塞ぐために、信楽焼の陶土を買いに走った、という話を先輩方から聞いたことがあります。

末永所長は、高松塚古墳の調査・保存事業は、国全体で当たるべきとのお考えでした。

この方針が受け入れられ、4月5日をもって、

官民学、官であれば省庁を超えた連携や、国・県・村の連携等、明日香村ではすでに実現しているボーダーレスな協業をさらに進めて「明日香まるモデル」というべき実践を実現・発信できるとよいと思いますし、明日香ならそれは充分可能だと思っています。

周辺地域との連携をはかりつつ、官民学、官であれば省庁を超えた連携や、国・県・村の連携等、明日香村ではすでに実現しているボーダーレスな協業をさらに進めて「明日香まるモデル」というべき実践を実現・発信できるとよいと思いますし、明日香ならそれは充分可能だと思っています。

飛鳥・藤原の世界遺産登録への期待

相原先生…現在、奈良県・橿原市・

飛鳥・藤原の世界遺産登録に携わってこられただと思います。「飛鳥・藤原」へのアドバイスも含めて、文化財の保存と活用について、お考

えをお聞かせ下さい。

本中所長…文化財の活用に力点を置く方向が強調されるのは、コミュニティにとって、文化財の価値を共有し、自らがその発信者にもなり得ることが重要だと考えられるからです

れる思いでした。この原稿を書くにあたり、当時の事、これからのお話を話しさせていただきます。

スタッフは村内の主婦5名でのスタートでした。まずは明日香村の郷土食を見直し、農業を営むスタッフから特に「飛鳥鍋」や「古代食・葉盛御膳」は大人気。私事で恐縮ですが、ドライブのお客様から「シェフを連れて帰りました」と嬉しいアプローチもありました。(笑)

一緒に働いた仲間は今でも気心の許せる大切な友人です。

令和3年1月末、国営飛鳥歴史公園内に併む宿泊施設「祝戸荘」が45年の歴史に幕を閉じました。私はそのお食事処「椎の葉」で13年間、調理に携わっていました。やはりコロナ禍の打撃は大きく、キャセルが相次いだ時は胸が締め付けられました。

次回が「星野リゾート」に決まり、明日香にこだわったお食事を提供していただきたいと思っています。これから私のやりたい事はペット同伴で楽しめる「民泊」と「古代米たこ焼き屋」をする事です。現在66歳ですが、人生はこれから(笑)終の住處である明日香の地でこの経験を活かし、次のステップに進みたいと思います。

私は国営飛鳥歴史公園から高松塚壁画館まで続く遊歩道が大好きです。華やかさはないけれど、ひつそりと咲くタチツボスミレやナンバンキセルを見つけたり、モズやカワセミなどの野鳥の鳴き声に癒されたりと何度も通っています。懐かしい日本の自然公園です。

今回の座談会に参加された方々の意見や思いを拝読し、この50年を思い巡らすと、胸が熱くなりました。ありがとうございました。

相原先生…本日は皆様、座談会へご出席いただき、貴重なご発言を賜り、ありがとうございました。

高松塚古墳壁画は、文化財保護の象徴でもありました。しかし、現地保存のため、実物を見られない至宝であつたが故、國民から少し離れた存在だったのかもしれません。そこには保存技術の課題や管理体制の不備が重なって、壁画が痛んだのです。

相原先生…本日は皆様、座談会へご出席いただき、貴重なご発言を賜り、ありがとうございました。

高松塚古墳壁画は、文化財保護の象徴でもありました。しかし、現地保存のため、実物を見られない至宝であつたが故、國民から少し離れた存在だったのかもしれません。そこ

